

技術情報

JA全農やまぐち

TAC・営農推進課（083-988-0681）

平成27年6月26日発行

第199号

I 平成27年度 第1回 水稻生育診断情報

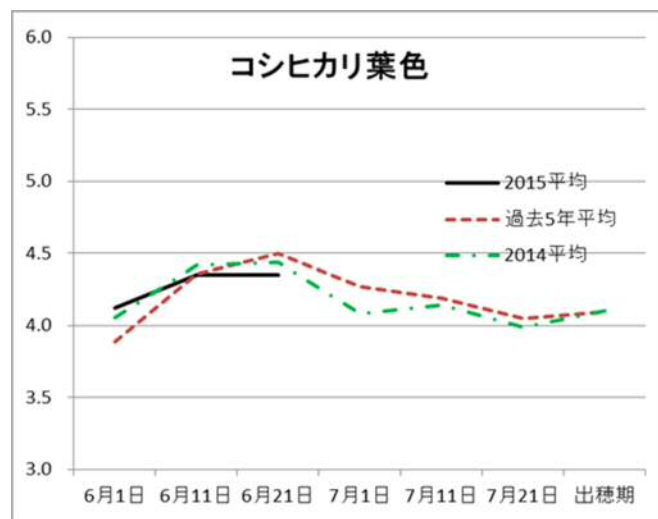
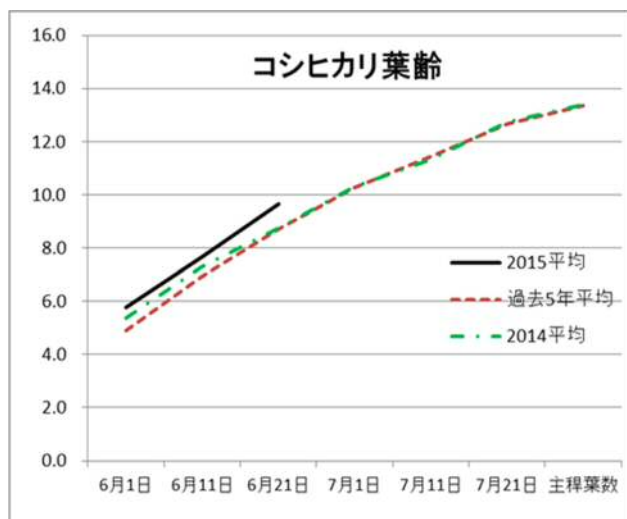
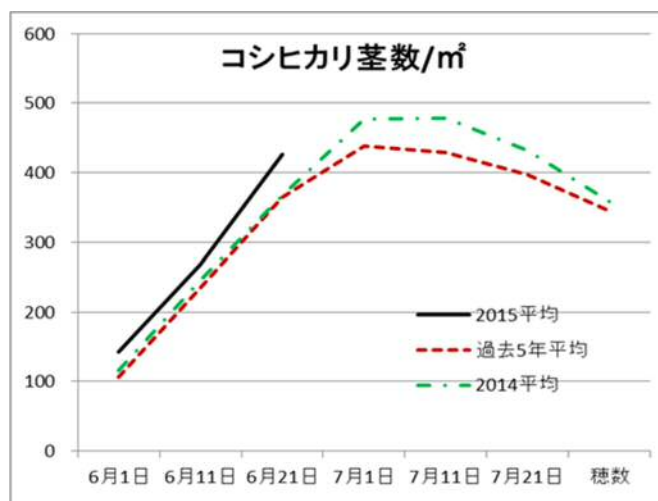
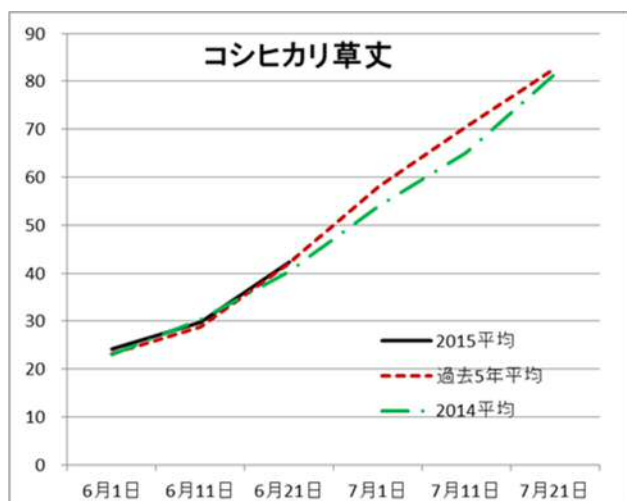
山口県農林総合技術センターからの水稻生育・栽培管理速報(No1)を基に技術情報を作成しました。
水稻栽培の管理指導にご活用ください。

1 気象概況

- ・4月下旬から5月にかけては全般的に晴れの日が多かったため、日中の気温が上がり、最高気温が高い傾向で推移した。最低気温は平年並でした。
- ・5月中下旬は高温多照で推移したが、第3第4半旬にはまとまった降水量を記録した。
- ・6月に入ると、まとまった雨が降り、降水量が多く、日照時間は平年並～少なく、気温は平年並みからやや低かった。
- ・6月中旬は、梅雨天候となったため、日照が少なくなり、最高気温は平年並～低く、最低気温は概ね平年並みでした。

2 生育概況と今後の管理

(1) コシヒカリ（5月上中旬植え）



①生育の概況

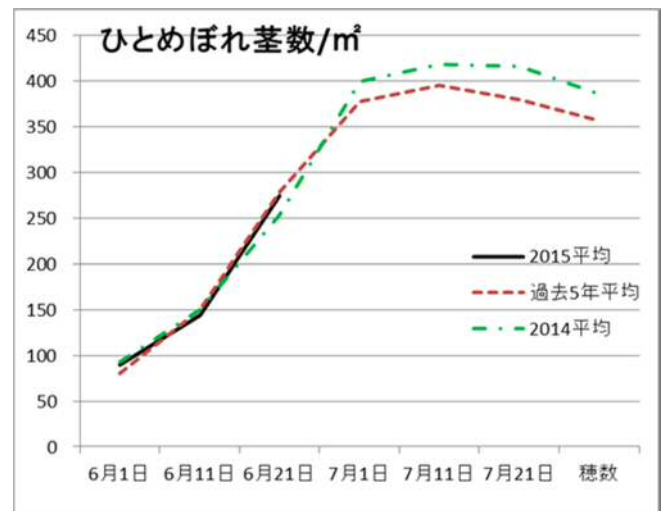
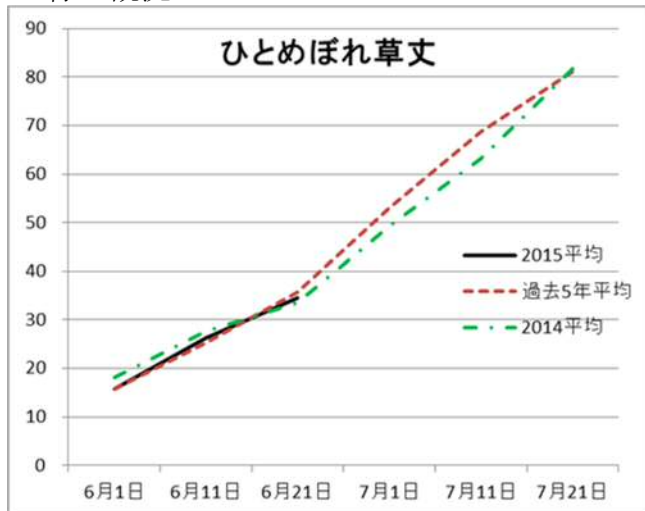
- ・6月22日時点で、平年に比べて葉齢の進展は早く、茎数は多く推移しており、葉色は押しなべてやや淡い傾向である。
- ・5月上旬植えでは、大半は茎数が平年を上回っており、 m^2 当り茎数が平年を100本前後上回り、過剰分げつ傾向の稲もある。葉色は前回の調査時よりも淡くなっている地点が多い。
- ・梅雨入り以降の寡照により葉の下垂が見られ、全体的には、やや軟弱気味、多げつ型の生育となっている。
- ・最高分げつ期は平年よりも早まると予想される。幼穂形成期、出穂期も現時点では早まる見込みである。
- ・栽植密度が15株/ m^2 以下の稲では、茎数確保が遅れているものもある。

②今後の管理

- ・茎数が多めに推移していることから、葉色が濃い場合には、有効分げつが確保されしだい強めに中干しを実施する。葉色が淡い場合には、地耐力がつく程度の中干しとし、弱めの間断灌水を行い、養分の不足を回避するとともに、分施体系では、葉色や茎数による診断を行い、適切に施肥する。
- ・今後1か月は気温がやや低くなる予報であることから、低温によって生育遅延や生育不良が生じた場合の追肥は控える。
- ・7月10日頃から湛水管理時期に入ることから、中干しは7月上旬までに完了する。
- ・県内の一部では、苗いもちの発生があることから、移植後の葉いもちの発生に注意し、病斑が確認されたら速やかに防除を行う。また、発病が無い場合も出穂前の防除は必ず実施する。
- ・ほ場に残っている補植用苗は、速やかに除去する。

(2) ひとめぼれ (5月中下旬植え)

生育の概況



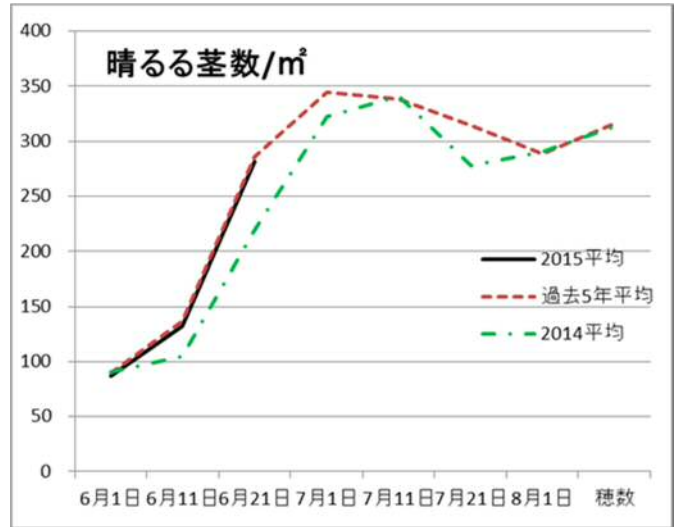
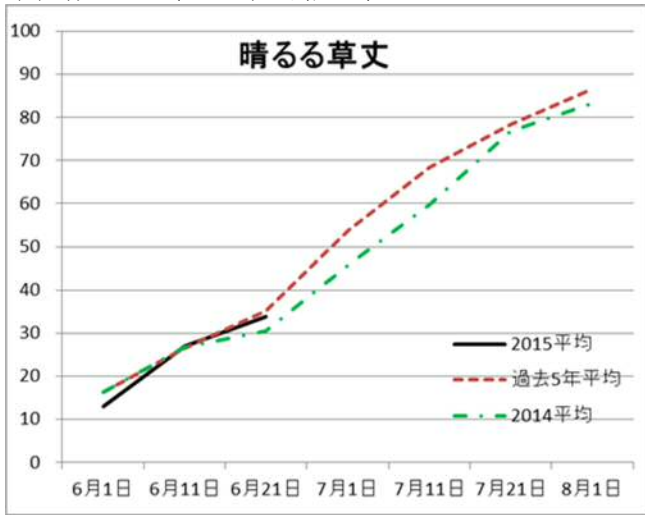
①生育の概況

- ・6月22日時点で、平年に比べて葉齢の進展は早く、草丈と茎数は、ほぼ平年並みに推移しており、葉色は押しなべてやや淡い傾向である。
- ・葉色が淡く推移している原因は定かではないが、地力を含めた窒素の不足、根の障害や根圏の発達不良などが考えられる。

②今後の管理

- ・必要茎数が確保された稲は直ちに中干しを実施するとともに、中干しまでは間断灌水を励行する。
- ・葉色が淡い場合には、まず赤枯れの発生の有無を確認し、間断灌水の徹底等、根域の拡大と生育の制御を両立する。
- ・栽植密度が低く、 m^2 当りの茎数が400本以下の稲は強い中干しを避ける。
- ・5月中下旬植は、7月15日頃から湛水管理時期に入ることから、移植時期に応じて計画的な中干しを実施する。
- ・今後1か月は気温がやや低くなる予報であることから、低温によって生育遅延や生育不良が生じた場合の追肥は控える。
- ・県内の一部では、苗いもちの発生があることから、移植後の葉いもちの発生に注意し、病斑が確認されたら速やかに防除を行う。また、発病が無い場合も出穂前の防除は必ず実施する。
- ・ほ場に残っている補植用苗は、速やかに除去する。

(3) 晴るる (5月下旬植え)



① 生育の概況

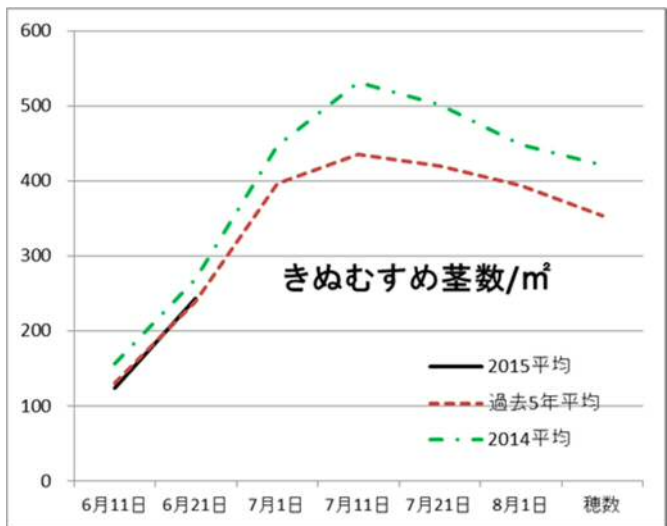
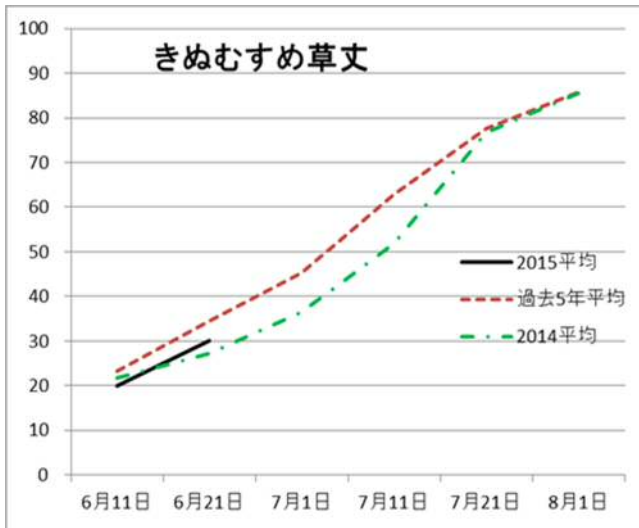
・6月22日時点で、平年に比べて葉齢の進展はやや早く、草丈、茎数、葉色はいずれも平年並みで、概ね順調に推移している。

② 今後の管理

- ・5月下旬植えは、間断灌水を実施するとともに、茎数が確保されたものから中干しに入る。
- ・茎数が少ない稲では、中干しは軽めに行う。
- ・今後1か月は気温がやや低くなる予報であることから、低温によって生育遅延や生育不良が生じた場合の追肥は控える。
- ・ほ場に残っている補植用苗は、速やかに除去する。

(4) きぬむすめ (5月下旬～6月上旬植え)

① 生育の概況



① 生育の概況

・6月22日時点で、葉齢の進展は平年並みで、茎数、葉色のいずれも平年並みで概ね順調に推移している。

② 今後の管理

- ・5月移植では、間断灌水を実施するとともに、茎数が確保されたものから中干しに入る。
- ・茎数が少ない稲では、中干しは軽めに行う。

3 病害虫の発生状況

- ・葉いもちの発生は平年並の予想であり、直近の調査では発生ほ場は確認されていない。また、5月31日には広域で好適条件が発生している。
- ・セジロウンカの初確認時期は6月3日で平年並、現時点での予想は平年並みである。
- ・トビイロウンカ、コブノメイガは現時点で飛来が確認されていない。

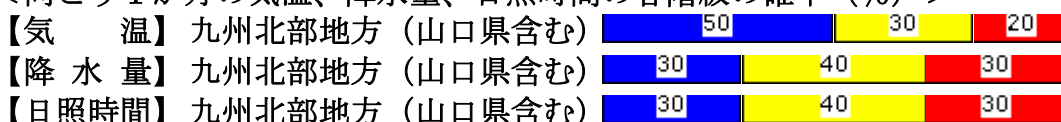
4 予想される向こう1か月の天候

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、低い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、低い確率50%です。2週目は、低い確率60%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

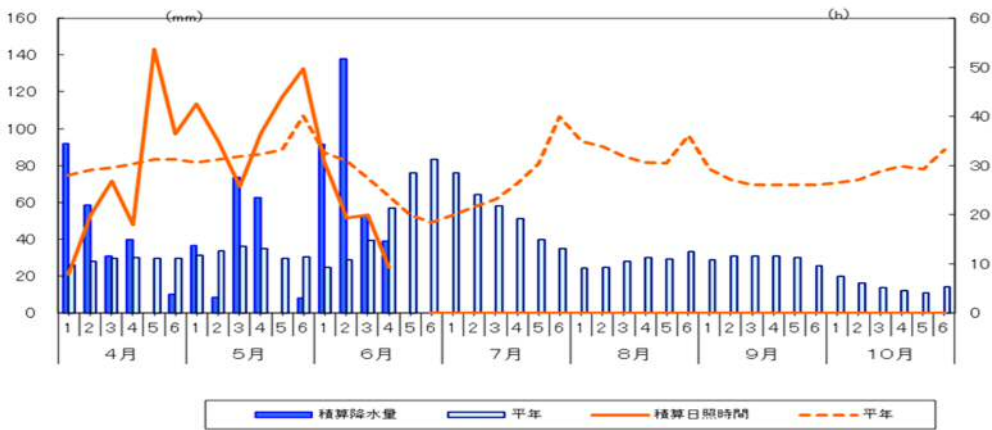
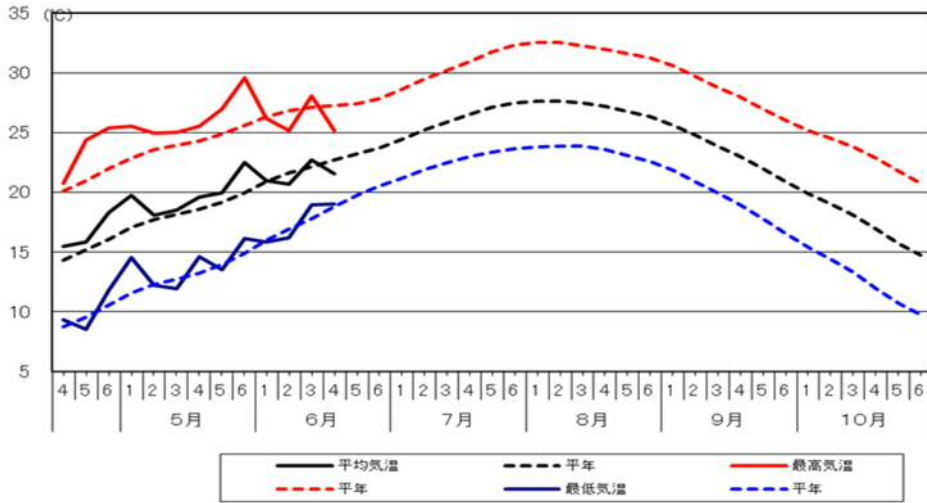
<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

5 2015年度稲作期間の気象

1 気象概況



降水量・日照時間（アメダス山口）

出穂期をひかえ、カメムシ被害軽減のため、

一斉草刈りをしましょう！

5 定点調査の生育状況

品種	地帯	草丈		茎数/m ²		葉齢		葉色	
			格差		格差		格差		格差
コシヒカリ	長門山間	43	2	495	105	9.8	0.9	4.3	▲ 0.2
	周防山間	34	▲ 2	377	64	8.8	0.8	4.4	▲ 0.1
	長門中間	42	3	274	▲ 61	9.8	2.0	4.6	0.2
	北浦	48	▲ 2	432	52	10.1	0.7	4.3	▲ 0.4
	瀬戸内東部	44	▲ 3	398	24	9.6	0.6	4.4	▲ 0.2
	平均	42	0	427	62	9.7	0.9	4.4	▲ 0.1
	農試定点	28	▲ 2	299	26	7.4	0.2	4.7	0.6
	農試奨決	48	▲ 3	553	▲ 46	9.1	0.0	4.9	0.1
	ひとめぼれ	周防山間	37	▲ 2	306	▲ 31	9.2	0.9	4.2
北浦		29	0	216	45	7.4	0.7	4.0	▲ 0.3
瀬戸内東部		34	▲ 4	322	5	8.6	0.8	4.0	▲ 0.6
瀬戸内西部		34	1	219	▲ 10	6.6	▲ 0.7	4.2	▲ 0.3
平均		34	▲ 1	274	▲ 4	8.2	0.5	4.1	▲ 0.4
農試定点		27	▲ 2	299	▲ 4	7.6	0.0	4.9	0.4
農試奨決		44	▲ 4	508	▲ 80	9.1	0.0	4.9	0.1
晴るる		長門中間	34	▲ 1	281	▲ 4	8.1	0.5	4.6
	農試奨決	45	▲ 3	584	▲ 27	8.8	▲ 0.2	5.0	0.2
きぬむすめ	周防山間	38	▲ 6	427	41	8.8	0.1	4.4	▲ 0.2
	長門中間	30	▲ 2	219	▲ 15	7.1	0.5	4.2	0.0
	北浦	27	▲ 4	189	26	6.1	▲ 0.7	4.3	0.0
	平均	30	▲ 4	244	▲ 6	6.8	▲ 0.1	4.3	▲ 0.0
	農試定点	27	▲ 2	274	24	7.4	0.2	4.7	0.7
	農試奨決	44	▲ 1	533	▲ 9	8.8	▲ 0.2	5.1	0.4
	ヒノヒカリ	北浦	34	34	189	26	6.1	▲ 0.7	4.3
6月上旬植	瀬戸内東部	11	▲ 14	90	▲ 16	4.9	0.1	3.7	▲ 0.3
	瀬戸内西部	20	▲ 2	85	▲ 9	5.3	0.2	3.7	▲ 0.4
	平均	19	▲ 7	121	▲ 28	5.7	0.1	3.9	▲ 0.3
	農試奨決	-	-	-	-	-	-	-	-
ヒノヒカリ	瀬戸内西部	-	-	-	-	-	-	-	-
	6月中下旬植 農試定点	-	-	-	-	-	-	-	-